



追悼 佐藤剛先生

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-07-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 古川, 宇一 メールアドレス: 所属:
URL	https://hokkyodai.repo.nii.ac.jp/records/8199

追悼 佐藤 剛 先生

In Remembrance of Professor Tsuyoshi Sato

昨年暮れ大晦日、北海道LD懇話会の小泉雅彦先生から、佐藤剛先生がアメリカでジョギング中に倒れられ、そのままお亡くなりになったことが伝えられました。小泉先生も私も佐藤先生には本当にお世話になっていたものですから、大きなショックと悲しみを覚えました。

先生は、非常に優しい方で、その優しさをいただいたものとしての悲しみでしょう。語り口の静かさ穏やかさにいつも気持ちの休まる思いがしていました。ただ去年は、お声が少し弱くなられた感じがして、心配もいたしました。スポーツ好きの仲間としては、ジョギングやクロスカントリースキーの話に興じ、運動が健康の元と考え、運動で元気になって頂きたいと思っていたのですが。

先生はバスケットのほかに高校時代クロスカントリースキーをなさっていたのですね。一緒に美瑛スキーマラソンに2回、参加いたしました。美沢のあたりでしたか、並んでスキーを滑らせたとき、ストライドの長い美しいフォームでスルスッと抜いてゆかれたのを思い出します。同じ昭和18年生まれで、遊びに仕事に親しくさせていただきました。

京都でありました国際児童青年精神医学会(1990年)のときでしたでしょうか、剛先生が北海道にLD研究会を立ち上げようとされたのは、その後もLD児者親の会を支えられ、また北海道LD懇話会を中心的に支えられ、LD児の療育・教育に貢献なさいました。

先生は、北海道教育大学旭川校にとりましては、私どもの情緒障害教育教員養成課程第11期(1991年度)の1年と、引き続き特殊教育特別専攻科1期から本年2002年度11期(情緒課程通算22期)まで、138名が学習障害と感覚統合について、ご講義をたまわりました。昨年、一昨年には、講義のなかに実習的要素を組み入れてくださって、旭川親子センターで実際に行動観察しアドバイスの実際を見せて頂きました。そのおり、一本足の椅子とか、下がボール状の椅子などで感覚統合の訓練ができるし、実際に授業などで有効かもしれないというお話もありました。

本年度、特殊教育特別専攻科の石谷麻衣子さんが、セラピーボール(Gボール)を使った遊びを特殊学級に導入しようと試みたのですが、その実践には佐藤剛先生のご講義から学んだことが取り入れられています。Gボールを椅子として使うことを試み、明るい笑顔と集中力を生み、大きな成果があったと担任の先生がおっしゃっていました。

先生は師匠のエアーズの言葉として作業療法が“Art and Science”であるとの言葉を紹介くださったと思います。この言葉と佐藤剛先生に強く惹かれ、是非にと講義をお願いした経緯があります。

11年間、夏休みに先生に集中授業をお願いしてきました。近い将来、アメリカでの仕事の可能性を検討していらっしやったのではないかと思います。やはり、これまでおつきあひした方々のことがあって、簡単には札幌を去るわけにはいかない様子でした。日本にいる間は、講義をやりまうと言ってくださり、本当にありがたい思いがしておりました。

私ども、お世話になる者といたしましては、魅力的な方にはできるだけ長く北海道にいていただきたいものですから、内心、ほっとしておりました。でも、それほど心身を消耗していらっしやったのでしょう。気持ちの上でもお引き留めすべきではなかったかと、今にして後悔いたします。

年とともに、ものごとを落ち着いて見るようになる方が多いのでしょうか。

佐藤剛先生が逝かれ、なんだか年をとっているのに悲しみが増すように感じます。

北海道教育大学旭川校
特殊教育特別専攻科(情緒障害教育)
主任 古川 宇一